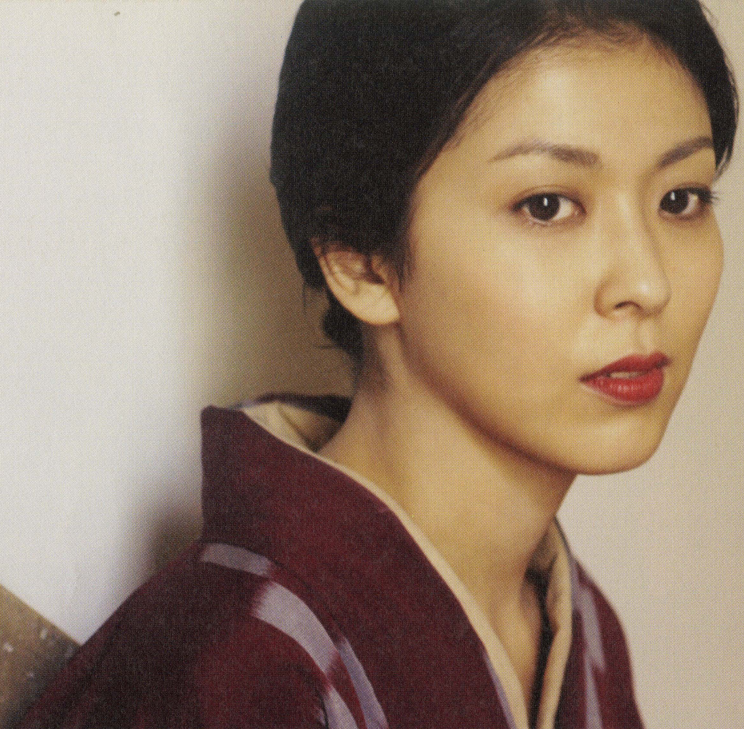


【小説家を愛する妻】  
松たか子



彼女は何故  
その男を愛したのか—。

【生きる事と闘う小説家】  
浅野忠信



すべてを失った後に、  
残るのが愛だと、  
女は知っている。

愛など信じたら、  
すべてが消えてしまうと、  
男は恐れている。



# ヴィヨンの妻

～桜桃とタンポポ～

松たか子 浅野忠信

室井滋 伊武雅刀 / 広末涼子・妻夫木聡・堤真一

原作 太宰治『ヴィヨンの妻』(新潮文庫) / 脚本 田中陽造 / 監督 根岸吉太郎

製作 亀山千広 山田美千代 田島一高 杉田成道 エグゼクティブプロデューサー 石原隆 直井里美 酒井彰 プロデューサー 前田久閑 木郷久美 菊地美穂志 / アソシエイトプロデューサー 柳葉直人 吉岡 吉松隆 撮影 柴王高秀(SJC) 照明 長田達也 録音 松澤康 美術監督 種田陽平 美術 矢内京子 装飾 鈴木高正 編集 川島卓正 衣裳デザイン 黒澤和子 衣裳 古藤博 ヘアメイク 倉田明美  
スクリーン 若菜みほ子 音響効果 藤原昌利 助監督 高橋正弥 製作担当 岩下真司 監査 藤原志 演出プロデューサー 宮崎慎也  
製作 フジテレビジョン / バンド 新潮社 日本映画衛星放送 制作プロダクション フィルムメイカーズ 配給 東宝 willon.jp PG12  
©2009フジテレビジョン バンド 新潮社 日本映画衛星放送

モントリオール世界映画祭  
コンペティション部門正式出品作品

太宰治 生誕100年  
ある夫婦をめぐる「愛」の物語



10月10日(土) 全国東宝系ロードショー

前売鑑賞券発売中! 一般1,300円

京王線 府中駅南口直結  
TOHOシネマズ 府中  
042(358)5001

劇場内での映画の  
撮影・録音は犯罪です。  
www.eigakan.org  
0120-550098



# 生誕100年の太宰治が描いた、ある夫婦をめぐる「愛」の物語。 男の弱さを理解し、そのすべてを包み込む妻。 その清々しく逞しい生き方が静かに心を打つ傑作の誕生。

破滅を志向する生き方の中で数々の傑作を書き続け、39年の短い生涯を駆け抜けた太宰治(1909~1948)。生誕100年を迎えている本年、太宰文学の魅力に改めて注目が集まっています。「人間失格」が与える自虐的で暗いというイメージだけで捉えられがちな太宰ですが、実は細やかな心理描写とユーモア溢れる表現で男女の様々な「愛」の形を描いた小説家でもあります。その代表作が「ヴィヨンの妻」です。

主人公の妻・佐知は真面目な人ですが、小説家の夫・大谷は借金を重ね、愛人を作ってしまうような人間です。それでも妻は夫との関係を切るどころか、そんな夫をあるがまま受け入れます。それは

彼女が弱いからではなく、むしろ強いからといえます。傍から見れば困った夫でも、深く理解し許せる妻の強さはとても魅力的です。その魅力ゆえに、夫以外の男性たちも佐知に惚れてしまいます。大きな愛で男性を包み込む女性は、崇高な美しさに溢れ、自然と男性を惹きつけてしまうのです。

「男には、不幸だけがあるのです。いつも恐怖と、戦ってばかりいるのです。」と弱々しいことを言い苦悩する夫・大谷と、そんな夫をやわらかに受け止め、しなやかに逞しく生きていく妻・佐知の愛の物語。この秋、人を理解し許す(強さ)、そして(愛の深さ)がきっとあなたの心を揺さぶることでしょう。

## Story

秀でた才能を持つ小説家の大谷(浅野忠信)と誠実で美しいその妻・佐知(松たか子)。大谷はその才能とは裏腹に、お酒を飲み歩き、借金を重ね、妻以外の女性とも深い関係になってしまう破滅的な生活を送っていた。ひょんなことから夫の借金を返すために飲み屋・椿屋で働き始めた佐知は、あっという間にお店の人気者になり、日に日に輝きを増していった。そんな佐知は、常連客の一人、大谷ファンの青年・岡田(妻夫木聡)や昔佐知が振り向いてもらえなかった弁護士・辻(堤真一)から好意を寄せられるのだった。見違えるように美しくなっていく佐知に嫉妬する大谷。そして大谷は、書くことそして生きることに苦悩し、愛人の秋子(広末涼子)と心中未遂を起こしてしまう。それを知った佐知は…。



「佐知と大谷はお互いの無垢な部分に惹かれ合い、お互いの弱さを知っている夫婦なんです。佐知を演じていて強く感じたこと。それは、佐知の大谷への想いが一途で深く、決して揺るがないものなんだということ。信じた人と歩いていく佐知の姿はとても清々しいです。」

佐知役：松たか子



「大谷はいろんな女性といっても、一番共鳴しているのが佐知なんだと思います。大谷はどこまでやれば佐知が離れるのか試しているけど、佐知は変わらず大谷のそばにいる。佐知は大谷にとっての一番の理解者で、大谷が苦しみながらも前進していく原動力なんです。映画を観て、自分が求めていた作品に出会えた感じがしました。」

大谷役：浅野忠信

## 世界が認めた、贅沢なキャスト・スタッフのコラボレーション。

妻・佐知役に松たか子。夫・大谷役に浅野忠信。さらに、大谷の愛人・秋子役に広末涼子、佐知に想いを寄せる青年・岡田役に妻夫木聡、再会した佐知に惹かれてしまう弁護士・辻役に堤真一と豪華実力派キャストたちが顔を揃えました。監督は、『雪に願うこと』『サイドカーに犬』など国内外で高い評価を得ている名匠・根岸吉太郎。太宰が描く「愛」の形を完全映画化するために、これ以上が考えられない贅沢なキャスト・スタッフが集結しました。そして、このコラボレーションが早くも世界から高く評価されました。昨年「おくりびと」がグランプリを受賞したモントリオール世界映画祭の創設者兼ディレクターの

セルジュ・ロジーク氏が本作を鑑賞後、主演・松たか子の演技力と存在感、共演キャストたちのハーモニーの素晴らしさを絶賛。さらに「一見、日本特有の男女関係を描いたように見えるが、実際は普遍的なもの。どの国の人が見ても理解できる内容。監督が美しい作品に仕上げた。」とコメント。映画祭コンペ部門への招待を即決しました。



## Column

### 【太宰文学がブレンドされたオリジナルストーリー】

映画化にあたって、ベースとなる「ヴィヨンの妻」に「思ひ出」「灯笼」「姥捨」「きりぎりす」「桜桃」「二十世紀旗手」などの太宰作品のエッセンスを絶妙なバランスで融合。本作では、大谷と佐知を太宰文学に出てくる印象的な言葉「桜桃」と「タンポポ」になぞらえています。痛みやすいけれど甘みがあって愛される(桜桃)が大谷、どんな環境にも対応して成長し、華やかではないけれど誠実な美しさを持った(タンポポ)が佐知なのです。

\*「ヴィオン」とは…高い学識を持ちながら悪事に加わり、逃亡・入獄・放浪の生活を送ったフランスの中世末期の近代詩の先駆者フランソワ・ヴィヨンのこと。無頼で放蕩な人の例えとして使われている。



## ヴィヨンの妻

～桜桃とタンポポ～

上映時間1時間54分/ビスタ/ドルビーSR [villon.jp](http://villon.jp)